

# 新普通科系高校創設に向けての「中間まとめ」の概要

## 1 新普通科系高校の創設に向けて

- 平成29年度以降に活用が可能となる洛陽工業高校の跡地に関し、平成26年8月に洛陽工業高校同窓会である洛陽京工会から「洛陽工業跡地は学校施設として活用してほしい」旨が、また、塔南高校の同窓会、PTA 役員経験者などで組織されている塔南高校愛校会、塔南高校 PTA、塔南高校の4団体から「洛陽工業高校跡地へ塔南高校を移転させてほしい」旨の要望がそれぞれ教育長へ提出されている。
- 塔南高校は交通の利便性、狭い校舎面積、老朽化が進む中で建物全体の約7割が耐震補強を要することなど、様々な課題がある。
- 洛陽工業高校の跡地に塔南高校を移転・再編する「京都市立洛陽工業高校跡地における『新しい普通科系高校の創設に関する基本方針』」（以下「基本方針」という。）を教育委員会において、平成27年6月に策定した。
- 教育委員会、中学校・高等学校校長会および塔南高校の管理職・教職員で構成する「京都市立新設高校創設プロジェクト」を平成27年7月に設置し、大学や産業界、保護者の方からもご意見をいただきながら、「新普通科系高校」の教育内容や学校規模、施設・設備など骨子について検討を進めている。

## 2 目指す生徒像・学校の基本コンセプトについて

- 基本方針において、塔南高校の教育風土をしっかりと引き継ぎ、「社会に貢献する生徒の育成」を学校の最高目標としている。
- 基本方針において示されている「目指す生徒像」と「学校の基本コンセプト」は以下のとおりである。

### 目指す生徒像

- ① 自らの将来像を描き、その到達に至る道筋と達成すべき課題を明確にして、目標の実現に向けチャレンジし続ける生徒
- ② 在校生はもとより、小・中学生や地域の方々等、世代や立場を超えた人々とも積極的に交流し、他者と協働して活動できる力を培い、多様な価値観や生き方を学びながら、自己の成長につなげることができる生徒
- ③ 国際化や情報化の進展する社会において、地域や社会の課題を多角的にとらえる視野を育み、科学技術分野や教育分野をはじめとする多様な分野で社会に貢献する気概を持って、社会的課題の解決や新しい価値の創造に向けて行動し、社会の発展に寄与することのできる生徒

## 学校の基本コンセプト

### ① <生徒が主体的・自律的にいきいきと活動する学校>

学習活動はもとより、生徒会活動や部活動などすべての教育活動において生徒が自発的に、意欲をもって全力で取り組める環境を提供する学校

### ② <地域に貢献し地域と共に発展する学校>

地域の小・中学校との連携事業を継承・発展させるとともに、地域でのボランティア活動や伝統行事などに生徒が積極的に参画することを通して、地域の発展に貢献するなど、地域と共に歩む学校

### ③ <生徒の持つ可能性を引き出し、高める学校>

生徒が成りたい自分を描きながら、夢や希望を持って学校生活を送れるよう、個の可能性を最大限に引き出し、その実現に向けて、一人一人を徹底的に大切にしている学校

## 3 教育課程や教育活動の具体化について

### (1) 京都の都市特性を最大限に生かした教育活動の在り方

- 1200年を超える歴史の中で磨き上げられた伝統と文化が息づく京都への文化庁の全面的な移転が決定された。今後、日本文化の更なる振興・発信と「文化芸術立国・日本」の実現に寄与する京都の役割はますます大きくなっている。
- 伝統や文化に加え、「大学のまち」「ものづくり都市」など、多様で奥深い都市特性を有する京都は、生徒が様々な分野の人との交流を通じて刺激を受ける機会に恵まれており、自らを見つめ、人として成長していくうえで絶好の学びの場であり、京都の強みを最大限に生かした教育活動を推進する。
- 京都という都市の強みを最大限に生かし、人文社会、自然科学の分野を問わず、将来社会の発展に失敗を恐れず果敢にチャレンジする意欲と行動力を育む教育を推進する。

### (2) 魅力あふれる教育課程の編成と授業の在り方

- キャリア発達を力強く支援し、基礎学力の確実な定着を図るとともに、言語技術の習得を基盤として社会人基礎力<sup>※1</sup>を高めるための教育課程を編成する。
- 「総合的な学習の時間」を教育課程編成の核として、他者と協働し解決策を考え実行する力を育成するため、身近な「地域」課題の解決をテーマとした文理の枠にとられない探究活動を行う。
- すべての教科でアクティブ・ラーニング<sup>※2</sup>を取り入れ、生徒の意欲を引き出しながら、生徒の興味関心に応じた学習テーマで授業づくりが行われるような環境を整える。
- 京都が誇る文化や芸術に触れ、自国文化に対する理解と誇りを高めるとともに、相互に留学生を受け入れる姉妹校提携等による国際交流プログラムの実施を検討する。

※1 社会人基礎力 … 組織や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力で、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力から構成される。

※2 アクティブ・ラーニング … 教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学習者が能動的に学習することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。

### (3) 生徒の主体性を引き出す教育活動の在り方

- 海外研修や学校説明会等の学校行事において、生徒が行事の企画・立案から、運営までを行える枠組みを構築する。
- 部活動において生徒が活動計画や活動内容等を可能な限りマネジメントできる仕組みの構築や、学期毎に登録できる部活動や課外活動の設置など、多様な教育活動を展開する。

### (4) 小・中学校等や地域と連携した教育活動の在り方

- 地域清掃、防犯・防災等のボランティア活動や福祉施設との連携事業など、教育活動におけるダイバーシティ<sup>※3</sup>化を推進し、多様な他者との関わりを通して協働する力を育成する活動を展開する。
- 探究活動の成果などを積極的に発信し、高校生が子どもと大人を繋ぐ役割を果たしながら、地域に様々な世代間の交流を創出する。
- 地域とともに歩む学校づくりを進めるため、学校・家庭・地域がともに学校運営について協議し、行動する「コミュニティ・スクール」導入の準備を進める。

※3 ダイバーシティ … 性別、年齢、国籍、障害の有無といった個人の属性にかかわらず、多様な人材の「違い」を尊重し、かつその「違い」に価値を見出し、能力や発想、価値観を融合する考え方。

### (5) チームとして協働する学校の在り方

- 教科や分掌の枠を越え、教育目標の実現に向けて全教職員が一丸となって取り組んでいくことが必要であり、卒業時までには生徒に身につけさせたい力を明確にするとともに、学年ごとに到達する指標を設定し、授業や指導のあり方をPDCAサイクルで改善につなげていく。
- 教職員のチームとしての力を高めるため、チームビルディングや生徒の主体性を引き出すためのコーチングスキルに関する教職員研修を定期的に実施する。
- 地域や企業・大学の方々に教育活動を支援していただくため、専門のコーディネーターを核とする教育支援組織（サポートボード）を校内に設置し、特色ある教育活動を支える仕組みを構築する。

## 4 施設・設備について

### (1) 生徒が主体的・能動的に学びあう施設・設備

- 少人数での話し合いや発表が行いやすいなどアクティブ・ラーニングに適した教室やラーニングコモンズ<sup>※4</sup>の機能を充実させた図書館の設置が望まれる。
- 教室に限らず廊下などの開かれた空間で自由に議論が生まれるスペースの整備や、プレゼンテーションや交流行事などで活用できるホールの設置等が必要である。
- ICT機器を積極的に活用し、情報を自ら活用、また他者と共有するための環境を構築するため、校内のWi-Fi環境をはじめとするICT機器等を整備する。

※4 ラーニングコモンズ … 複数の生徒が集まって、電子情報や印刷物など様々な情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。

## (2) 「魅せる高校」のための施設・設備

- 施設を地域の小・中学生等へ開放するとともに、高校生とともに学習の企画を行う。
- 学習・部活動の合宿や海外からの留学生の受入れが可能となる宿泊機能などを備えた多機能型の施設の設置を検討する。
- 「するスポーツ」だけでなく、応援・観戦や地域スポーツの振興などの「観る・支えるスポーツ」を意識したグラウンドや体育館の整備が望まれる。

## (3) 地域が輝く施設・設備

- 雑誌・図書の閲覧スペースやカフェテリア等，地域の方や近隣の小・中学生が気軽に利用できる施設の整備が必要である。
- 災害時における被災者の受入れや救援物資の備蓄，消防器具の保管などが可能な防災拠点としての機能を備えた施設・設備の整備が必要である。

# 5 学校規模・設置学科について

## (1) 学校規模について

- 生徒の能力や個性を最大限に伸ばすための教育課程や部活動，生徒会活動等の活性化を考慮し，1学年7学級（280人）程度の規模を確保することが望まれる。

## (2) 設置学科について

- 塔南高校においては，勉学と部活動の高いレベルでの両立を目指した「文武一貫」を教育方針とし，土曜を活用した補習や朝学習など，学習習慣の定着と学習意欲の向上を図っている。
- 普通科においては，社会においてたくましく生き抜くための社会人基礎力を身につけさせる指導とともに，進路展望を高め主体的に学ぶ生徒を育む教育課程の構想を目指すことが重要となっている。
- 「教育みらい科」の教育内容そのものに興味を持ち，専門科目を通して身につけた力が医療や福祉等の仕事に生かせると考えて入学した生徒も少なくない。また，教育みらい科での学習や経験が，大学の推薦・AO入試や大学入学後のゼミ活動等においても非常に役立っているという卒業生からの意見が多い。
- 設置学科については，教育みらい科の発展・見直しも含め，目指す生徒像の実現という観点からさらに検討を進める。